平成 26 年度　第１回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日　時　　平成２６年６月３０日（月）　午後５時～７時

場　所　　京都市上下水道局本庁舎　５階第１会議室

出席者（五十音順，敬称略）

１　委員

植田　智史　　市民公募委員
奥原　恒興　　京都商工会議所専務理事
神子　直之　　立命館大学教授（理工学部）
中嶋　節子　　京都大学准教授（大学院人間・環境学研究科）
水谷　文俊　　神戸大学教授（大学院経営学研究科）
村上　祐子　　株式会社京都放送取締役・ラジオ編成制作局長
安田　桂子　　京都市地域女性連合会常任委員

２　京都市

管理者，次長，技術長，総務部長，総務部経営・防災担当部長，
お客さまサービス推進室長，技術監理室長，水道部長，下水道部長
事務局（総務部経営企画課）

次第

１　開会

（１）出席者確認
（２）上下水道局出席者の紹介
（３）京都市あいさつ
（４）議事の確認，会議の公開について

２　報　告

（１）平成２５年度第４回京都市上下水道事業経営審議委員会の意見対応について
（２）平成２６年度京都市上下水道局運営方針，京都市上下水道局事業推進方針について

３　議　題

平成２６年度経営評価（平成２５年度事業）方法について

４　今後の予定

５　閉　会

内容
１　開会
（１）出席者確認
（２）上下水道局出席者の紹介
（３）京都市あいさつ
　　公営企業管理者上下水道局長　水田　雅博

（４）議事の確認，会議の公開について
事　務　局：　議事及び資料の確認

水谷委員長：　本日の会議は公開とし，議事録については，後日公表することとする。
　議事録ですが，２名の委員の署名が必要ということなので，名簿順で，植田委員と奥原委員にお願いしたい。

２　報　告
（１）平成２５年度第４回京都市上下水道事業経営審議委員会の意見対応について
事　務　局：　資料の説明（資料３）

水谷委員長：　ただいま事務局から説明があったが，何か御意見等はあるか。

神子副委員長：　確認だが，これは重点課題の中の重点項目であり，パブリックインボルブメントの資料としてどう見せるかということであり，重点課題の事業内容が変わるということではないということでよいか。

京　都　市：　そのとおりである。

水谷委員長：　他に確認しておきたい点はあるか。なければ，今回資料３で作成していただいた内容については委員会として良しとして進めていただきたい。

（２）平成２６年度京都市上下水道局運営方針，京都市上下水道局事業推進方針について
事　務　局：　資料の説明（資料４及び資料５）

水谷委員長：　資料４及び資料５については，かなり工夫されて作成されていると思う。更に，工夫すべき表現など御意見あればお願いしたい。

中 嶋 委 員：（資料５について）琵琶湖疏水クルーズについて記載されているが，施策目標Ｖの経営基盤の強化として事業化に向けた検討の項目に位置付けられている。上下水道局としては，経営基盤の強化として判断しているのか。施策目標Ⅳの中の琵琶湖疏水の適切な維持管理の項目には特に記載されていない。クルーズの位置付けを伺いたい。保有資産の有効活用には間違いないが，経営基盤につながるものかは疑問である。

京　都　市：　クルーズの事業の位置付けについて，京都の上下水道事業の歴史を知っていただき，理解していただくことで事業のＰＲにつながっていくと考えている。保有資産の有効活用に挙げているのは，事業者に疏水をお貸しし，その事業の中で上下水道局にも一部収益が得られないかという意味で挙げている。ただ，事業のＰＲや事業の理解をいただくという意味では，施策目標Ⅳにもつながるため，複数の項目にまたがるものである。事業推進方針では，保有資産の有効活用に主眼を置いて書いている。

中 嶋 委 員：　考えは理解できるが，やはり市民的な感覚で言うと，クルーズで水道事業自体の経営基盤の強化という発想が違っているのではないかと思う。あくまで水道事業の歴史を伝えていくというところに主眼をおいてやる方がより意義があるので，両方の項目に入れていただくのがよいかと思う。

水谷委員長：　ただ単に資産を活用する方だけに書くと経営的な側面だけに見えてしまうので，市民に歴史的な資産について知っていただき，更に活用するということなので，その点を同時に見えるようにしていただきたいという意見であり，もっともだと思う。ぜひ反映していただきたい。

奥 原 委 員：　いくつか教えていただきたい。資料４の６ページに「おいしい！大好き！京の水キャンペーン」とあるが，海外では水が飲めない国も多いのに，日本では飲める。この点について，原水について問題があるのか，浄水技術でどんな水も飲めるようになるのか教えてほしい。最近ではナチュラルウォーターがたくさん出回っているが，上下水道局としてはどう感じているのか。また，「疏水物語」について災害用備蓄飲料水ということは，通常は使わないでということなのか。

京　都　市：　京都市は琵琶湖を原水とし，通常の日本の浄水処理で飲めるようになる。海外の状況については，原水にも問題があるが，浄水処理技術そのものがレベルが違い，日本ほどの高い技術に至っていない。

京　都　市：　ペットボトルのナチュラルウォーターについては，敵対視はしていないが，水道

水が生水であるから飲んではいけないという大きな誤解がいまだにある。この点については，水道水はおいしく安全に飲める水であるということを伝えていかなければならない。市内小学校には，水道水は飲めるというＰＲをして呼びかけている。また，様々な機会を通じて，水道水は安全・安心，安定的で環境にやさしいということを粘り強く周知していく必要があると考えている。

来月の中頃には，市役所前に水飲み場が設置される予定だが，その場でも水道水のＰＲをしていく。

「疏水物語」については，災害用備蓄の水として作っており，これをもって収益を上げるような事業展開には至っていない。上下水道局本庁舎前や京都駅には自動販売機で「疏水物語」を販売しているが，災害用備蓄の水としてＰＲしている。更に観光客の方々に買っていただくことなどにより，京都の水道水を広くＰＲできるものと考えている。デザインについては賛否両論あるが，工夫しながらＰＲの材料にしていきたい。

奥 原 委 員：　重点項目１の改築更新の推進は，市民の皆様に安心・安全な水を届けるという面で一番重要なところではないかと考える。先日の国家予算要望の中で，京都市の水道管の更新に国の補助の採択基準が当たらないという表現があった。これはどういうことなのか。他都市と比べてどうかということを教えていただきたい。

京　都　市：　老朽管の更新にかかる国の財政支援制度は，給水人口５万人以上の水道事業者の１箇月当たりの平均の料金が，月１０㎥で１，１２２円以上でないと補助があたらないという仕組みになっている。京都市の場合は月１０㎥で１，０１８円であるので補助があたらず，他の大都市でも同じような状況である。

京　都　市：　現状の国の制度は，水道事業を運営していくのがやっとという小さい町を救うためのものである。今後も引き続き他の大都市と連携を取って，ライフラインを守るため，国のバックアップを強く要望していきたい。

中 嶋 委 員：　重点項目Ⅱ－４の「雨に強く安心できる浸水対策の推進」の中で，雨水の流出抑制の推進というものがあり，雨水貯留タンクや雨水浸透ますに対しての助成について書かれているが，具体的にこれまでの実績とこれから雨水の流出抑制をどのように進めていくのかをお伺いしたい。最近は「雨庭」などの雨を貯める庭作りが建築分野で流行ってきており，ドイツなどでは下水に流す量に応じて料金を負担するという制度の影響もあり，雨水を貯めるということが積極的に行われている。

京　都　市：　雨水浸透ますの助成はＰＲ不足もあり，平成２３年度から助成制度を開始して

いるが，平成２５年度までの実績は６基という低い状況であった。これではいけないということで，平成２６年度からは制度も見直し，開発業者において設置されたものについても助成対象とした。現在，相談件数も増えてきており，目標を４０基としている。今後も継続してＰＲの方法も考えながら，普及啓発に取り組んでいきたい。

中 嶋 委 員：　他都市でも雨水の流出抑制が進んでいるところはないと思うので，京都で新しいことをすれば注目されて面白いのではないかと思う。

京　都　市：　補足をすると，雨水貯留タンクや雨水浸透ますの助成は，上下水道局が個人に対して行っているもので，京都市の都市計画局や建設局による公共施設などの大きな施設を作る際には，透水性の舗装や側溝の設置をしており，民間の開発に対しても，雨水流出対策の指導を行っている。

京　都　市：　先ほどの雨庭の話にあったように，デザイン性の高い装置が普及しつつある段階であるので，我々としても調査を重ねたうえで，今後どのようなものが助成制度の対象となるのかという検討をしていきたい。

村 上 委 員：　事業推進方針の最後に用語説明があり，分かりやすいと感じた。生活していて一番感じることは「今自分の住んでいる地域は安全か」ということである。最近はゲリラ豪雨のニュースが毎日のように流れており，京都市は大丈夫ですというアナウンスがあることで，より身近に京都市のまちづくりを感じてもらえるのではないか。耐震化工事の実施の項目でキロ数の記載があるが，自分の地域が示されることで安心につながるということがあると思う。

京　都　市：　過去に浸水があった場所の履歴や，河川が氾濫した場合の状況を示したマップを京都市で作っており，全戸配布を行ったことがある。各事業について，地域での進捗状況をどのように表記していくかは検討していきたい。

植 田 委 員：　用語の説明が最後にあるのがもったいない。市民が必要にしている部分かと思うので，見えやすくしてもらいたい。

京　都　市：　従来の作り方を踏襲してしまっている部分がまだまだあるので，今の御意見を反映していきたい。

水谷委員長：　色々沢山の意見をいただいたので，それを反映させる形で進めていただきたい。

３　議　題

平成２６年度経営評価（平成２５年度事業）方法について

水谷委員長：　前回から時間が経っているので説明すると，昨年度の第２回審議委員会で，中長期計画の目標が確認できるようにしたらどうか，また，重要な事業に対する評価をどうするか，という話があり，第３回審議委員会で事務局から案を提示していただいた。第３回では，単年度と中長期が併記されているとわかりにくい，という意見があり，事務局に分かりやすくする工夫をお願いした。これを踏まえて再度，事務局から今回の案が提示された。事務局の説明をお願いする。

事　務　局：　資料の説明（資料６）

水谷委員長：　これも，かなり京都市が考えてうまく整理されていると思う。別紙１は１枚で分かるようになっており，事務局の説明にはなかったが，どれが重点項目であるかも分かるように工夫してある。別紙２は重点項目だけを取り上げて作成されている。事務局の課題についても記入されているので，その点についても意見をいただきたい。他都市と比べても，かなり見やすくなっており，よく頑張っておられると思う。ここまで，みなさんの意見を取り入れているので，さらにアドバイスできる点があれば意見を伺いたい。

植 田 委 員：　二重丸で重点項目を示しているが，資料５の事業推進方針のように重点項目を色付けして表してはどうか。網掛けで二重丸は少し見えにくいと思った。また，進捗率の話で機械的に示すとどうかという懸念であるが，機械的ではなく１０％でも順調であるとか，言葉で示すことはできると思う。なぜ機械的にされたのかを伺いたい。

水谷委員長：　色の話は経費節減でされたのか。

京　都　市：　経営評価の冊子は本冊と概要版の２種類あり，本冊は白黒で作成している。白黒の状態でどの項目が重点項目であるか分かるようにしたい。概要版はカラーで作成しているので，検討させていただく。進捗率と説明文については，御指摘のとおりである。今回の案は皆さまの御意見をいただきたく，あえてこのような形で示している。

水谷委員長：　５年で５つのしずくということは，１年で２０％，１つのしずくで示すと，１年で１０％の進捗の場合，それが予定どおりであっても，遅れて見える。逆に１０％で順調に進んでいると表記すると，なぜ１０％なのに順調なのか，という意見も出てくるかと思う。これを踏まえたうえでどうすればいいか，意見があれば

伺いたい。

中 嶋 委 員：　細かい数字の話ではなく，大きく中期プランの中でどれくらい進んでいるのかを示すことができたらいいと思い，ベンチマークの話を過去の審議委員会で申し上げた。数値としずくを併記する必要があるのかが疑問である。せっかくしずくをつくったので，数値をやめてしずくだけにして，言葉の説明をしたらどうか。今ここまでだが，あと２年で大きく進む事業であるとか，最終年度が大きな意味のある事業であるなど，説明してしまうのもどうかと思うが，大きく評価できる方法でやっていただきたい。せっかくしずくを作ったので，もっとしずくを大きくかわいく分かりやすくしていただきたい。

水谷委員長：　京都市が真面目にきっちり根拠を示して作成するとこうなったと思われる。それをざっくり示してはどうか，数値を書かないほうが誤解を招かない，という意見である。

神子副委員長：　５箇年に対する評価を出すのであれば，しずくを出すだけでいいと思う。進捗率を出すのは誤解をまねくので，併記はおかしい。ただ，しずくの根拠がなにか，ということを示すためには，全体の進捗を単年度評価で示すのが良いのではないか。単年度目標が１０％で，実績が１０％なら順調であって，それが abc 評価であると思われる。また，５年間連続で評価を見る人がいるか，という問題が別にある。

水谷委員長：　みなさんの意見は，機械的にやるのはどうか，数値の併記は誤解をまねくのでやめた方が良いということである。

中 嶋 委 員：　単年度の目標が達成されていれば，しずくを一つ塗ればいいという話か。

水谷委員長：　そのとおりである。

中 島 委 員：　全体のパーセンテージではなく，各年を積み上げていけば５年後は目標を達成できるという方法はいいと思う。

神子副委員長：　１年目は順調ならば，１つずつ塗られているということか。

水谷委員長：　この御意見について，事務局のほうはどうか。これだと困るか。

京　都　市：　基本的には単年度評価を基本としながら，5 箇年のプランに対する評価として

は，市民の方に分かりやすく，という点に主眼をおいて行っていきたい。数字にこだわり過ぎた点があり，委員の意見を踏まえて，数字の記載は検討していきたい。

水谷委員長：　１年目はしずくが一つ，２年目はしずくが二つ塗られていれば順調である，というイメージである。単年度でしずく二つ目が塗られていれば，目標を上回っており，塗られていなければ遅れているというイメージであることから，数値を入れるより分かりやすい。

中 嶋 委 員：　しずくのデザインをもう少し工夫して欲しい。

水谷委員長：　デザインはやはりセンスが問われる。

神子副委員長：　元々の話になるが，しずくが５つあればよいということか。

中 嶋 委 員：　一般的なベンチマークで申し上げたのであり，１個でも１０個でもかまわない。５箇年なので５つの案を出していただいた。

水谷委員長：　もう一度整理すると，事務局案では基本的に５年のプランであるので，均等にいけば，１年に１つずつしずくが塗られていくことが念頭にある。だが，工事の進捗だと，最初はなかなか進まず，後で一気に進むものがある。単年度の目標は達成しているが，全体の進捗で示すと順調に進んでいるように見えないので機械的に評価するのはどうか，という意見があった。そこで，数値は入れずに，一つの案としては，単年度の目標を満たしていれば一つのしずくを塗り，最後の年度で５つのしずくが塗られていれば順調に終了した，という形になる。単年度で目標以上に進んでいれば多く塗られ，目標に達していなければ少なく塗ることとなる。

神子副委員長：　単年度目標が達成すればしずく一つを塗る方法と，全体の進捗が２０％でしずく一つを塗る方法が混ざっているように感じる。今はどちらの塗り方について議論されているのか。

中 嶋 委 員：　事務局案だと後者であるが，それだと事務局が頑張っているのに誤解を招くこととなる。

神子副委員長：　４年間で一つのしずくしか塗られていないが，５年目で全て塗られるものもある場合，それを格好良く見せるにはどうすればいいか，という話だろうか。

中 嶋 委 員：　単年度で評価した方が順調に進んでいることを評価できると思う。

神子副委員長：　目標どおり進んでいるのかという市民からの目で見て，目標どおりやっているという評価になる。だが，そうすると，１年に一つずつしずくが塗られていくだけであまりおもしろくない。

水谷委員長：　ただ，遅れていれば２つ目のしずくが半分になったりするから，それで表現できる。

神子副委員長：　単年度目標で達成しないことはあるのか。

京　都　市：　ありえる。

神子副委員長：　それをどの程度表示する必要があるのか。また，目標よりもうまくいく場合は，予算の考え方だと目標どおりぴったりするのが本来の姿とすると，１年に一つずつしずくが塗られるという，おもしろくない評価になってしまう。

中 嶋 委 員：　一つの大きなしずくにすればいいかもしれないが，塗っていくのが大変である。

水谷委員長：　大きなしずくにしても，どこまで行っていれば，中長期の年度に関して進んでいるか，という問題はあるから，結局同じである。

中 嶋 委 員：　遅れているという評価を気にしなければ，今のこの表記でも構わない。

水谷委員長：　簡単なのは進捗率２０・３０％でそのまま示すのではなく，順調に行っていれば，その年度のところまで塗ればよい。遅れていれば半分くらいまで塗るなど，単年度評価と中長期の間を取る形であるが。

神子副委員長：　情報が落ちないか。

中 嶋 委 員：　情報は落ちてよいと思う。大きく捉えるためにするので。

神子副委員長：　予定どおり進んでいるのが大事か，市民が見て分かるようにちゃんと進捗していることを示すのが大事か，上下水道局のスタンスによって，単純化の仕方が変わってくるが，その辺りはどのように考えておられるのか。

京　都　市：　単年度の評価はこれまでしっかりしてきており，中長期に対する進捗率を市民のみなさまに分かりやすく示すことがテーマである。プランに対する進捗率をわかりやすく見える形にしたい。

神子副委員長：　一番分かりやすいのは，横軸に年度を取って，予定の折れ線グラフを書き，今年度どこまでできたか，というのが一番分かりやすいが，それを全ての項目で行い，分かりやすくするのは難しい。

中 嶋 委 員：　それは，かわいくない。

神子副委員長：　それの替わりにこのしずくなのか。

京　都　市：　しずくに顔を書くのはどうか。

中 嶋 委 員：　企業のキャラクターみたいになる。

水谷委員長：　顔の表情で示すということか。

中 嶋 委 員：　すみとくんが笑ったりする。

神子副委員長：　２・３年目の中間評価をするということか。その時点での評価を笑っている・普通・泣いてるの３段階評価くらいですれば，整合性はとれる。

水谷委員長：　しかし，それをすると左側の単年度と右側の中長期が，分かりにくくなると思う。しずくの５段階評価ぐらいがいいと思う。市民が分かりやすい表記がいい。順調に進んでいるのが視覚的に分かればよい。

京　都　市：　いろいろ意見をいただいたので，事務局で委員長と相談させていただきたいと思う。

安 田 委 員：　しずくよりも，顔のイメージの方がわかりやすい。キャラクターを利用していただいた方が楽しいのではないか。

中 嶋 委 員：　すみとくんは複雑なキャラクターなので，多少笑ってもよくわからないかもしれない。

水谷委員長：　しずくは５つならべて，しずく一つだと悲しんでいるとか，すみとくんの表情

を使った案を考えていただきたい。

京　都　市：　経営指標評価では，すみとくんの表情で表している部分もある。しずくの数とすみとくんの表情を組み合わせることを検討する。

奥 原 委 員：　評価をするときは目標を数字にするとやりやすいのだが，別紙１の「導水施設の２系統化によるバックアップ体制の強化」の項目で，目標水準が「〇〇工事の継続実施」となると，何が目標かわからない。おそらくかなり先まで工事があるのだと思うが，５年の目標を明確にしないと，評価のしようがないと考える。

京　都　市：　今回の中期経営プランは平成２９年度までの計画であり，長年にわたる工事も含まれる。単年度の目標・実績についても分かりやすく表現できるように工夫していきたい。

水谷委員長：　質問がなければ，今日の意見を反映していただいて，次回もう一度事務局から案を提示していただきたい。

水谷委員長：　次に，「地下水利用専用水道」について私から話をしたい。前回からの経過として，昨年度の１１月１１日に開催しました第２回目の審議委員会において，事務局から説明を受け，その際，私の私案として，地下水利用専用水道に関する検討を行うための専門部会を設置することを提案し，皆さんの了承を頂いた。また，部会の設置等の具体的な進め方について，私の方に一任を頂いた。

その後，１２月１６日の第３回目の審議委員会において，地下水利用専用水道の負担の適正化だけでなく，更に大きな視点に立って検討を行うため，京都における地下水利用の歴史や文化，災害時の活用などの状況についての理解を深めることとし，まずは，私と副委員長を中心に自由に意見交換をするところから始め，その後時期を見て部会を設置するような形で進めさせていただきたいということで，皆さんに御説明し，御了承を頂いた。

現在の状況ですが，私と副委員長を中心に意見交換を重ねた結果，一定，京都の地下水利用等についての理解を深めることができたが，更に理解を深めるため，事務局に対して，他都市の状況などを情報収集するようお願いしており，現在，事務局で鋭意その作業を進めていただいているところである。

また，平成２６年３月２７日に水循環基本法が成立し，明日７月１日から施行されるが，これは，健全な水循環の維持・回復のための政策を包括的に推進すること等を目的とするもので，地下水を含む水が「国民共有の貴重な財産であり，公共性の高いもの」と初めて法的に位置付けられている。他の事業体では地下水を水道の水源として利用しているところもあり，また，本市においても災害時等

の水源として考えた場合には，地下水は非常に公共性の高いものであること，そういった観点でも十分，配慮をし，地下水利用専用水道について議論をしていく必要があるのではないかと考えている。

今後，事務局での他都市状況の情報収集の結果などを踏まえ，私の方で時期を見て，専門部会の設置について検討をしていきたいと考えている。

今回，期間が空いたため，どういう状況になっているのかを報告させていただいた。

4　今後の予定

水谷委員長：　本日の進行としては以上である。次回の委員会は，８月２８日（木）午後２時から開催予定ということである。本日，委員の皆様には円滑な審議に御協力いただき，ありがとうございました。事務局にお返しする。

5　閉　会